

(様式2)

平成 27 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1575900236		
法人名	NPO法人 地域ケアサポート魚沼		
事業所名	グループホームいなほ		
所在地	新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡己5910-1		
自己評価作成日	平成27年7月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/15/">http://www.kaigokensaku.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成27年9月26日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・民家改修型の木造二階建ての事業所です。施設的な雰囲気ではなく家庭的な雰囲気があります。
- ・施設内はバリアフリーになっていないが、逆に段差を意識することができるし、階段などは生活リハビリの一環となっている。
- ・週五日の入浴ですが、必要時は個別で入浴を増やす対応をしています。
- ・近隣住民との関係も季節の野菜が届いたり施設に訪問して頂いたりと良好な関係が築けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・職員の笑い声が溢れる家庭的な雰囲気の事業所である。  
2004年8月の開設以来、近隣住民との交流に努めてきたことから、現在では日常的な付き合いも深く、地元の野菜を届けてもらったり、防災等多くの協力を得ている。  
元民宿の家庭的な建物の内部には、階段、段差、傾斜があるが、これらの環境を介護に不利なものとするのではなく、管理者・職員が利用者一人ひとりに声かけしながら生活することで生活リハビリの機会となっている。また、屋内の随所に椅子やテーブルが設置してあり、利用者は好みの場所で他の利用者とは交流している。  
事業所では、小規模な施設ならではの家庭的な雰囲気のなかで利用者一人ひとりがその人らしい生活を送り、職員もそれを尊重した介護や支援を行っている。  
また、事業所では利用者を大切にすることと同様に職員を大切にしており、職員が悩みを抱え込まないようにストレスマネジメントに気を配り、研修の充実や資格取得の支援など介護職員としての職員育成にも力を入れている。こうした環境の中で職員の離職は少なく、介護の仕事が初めての職員であっても介護福祉士の資格を取得するに至っている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成17年に全職員で4つの理念を作成する。玄関や事務所に理念を掲げ何度でも確認できるようにしている。利用者支援に迷った時は理念を振り返り介護に活かすように努力をしている。10年を経過した中でグループワークを通じて再度、作成の準備をしている。	開設当初に全職員で作成した4つの理念を基に、現在も職員が一丸となって理念の共有と実践に努めている。理念を事業所内に掲示するとともに、管理者と職員は職員会議やカンファレンスの場で普段のケアを振り返る際に理念を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回発行のNPO広報誌の配布や芸能ボランティアの受け入れを行い地域の方から来所頂いている。季節の野菜が取れると届けてくれるなど、地域とのつながりを大切にしている。	開設当初から地域住民との交流に努めており、現在では地域の方々の理解も得て多くの支援をいただいている。地域の方から地元で採れた季節の野菜を届けてもらったり、災害時の協力について声をかけてもらうなど、良い関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	津南町実施の介護予防普及啓発事業の委託を受けて年3回町内で認知症に関する出前講座を開催し、地域でも福祉総合相談窓口となれるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね二カ月に一回のペースで開催している。関係者に対して、事業内容を分かりやすく説明出来るようにしている。	会議には、家族代表、役場職員、民生委員、住民代表、事業所職員が参加し、事業報告のほか、利用者へのサービス・支援の具体的な内容に関する課題の共有と検討が行われている。参加者から事業所で行っているバーベキューに地域住民を招いてはどうかと言った意見が出され、それを実現した。地域に関する情報共有や協議も行われており、地域福祉の向上にもつながる会議となっている。利用者は直接出席していないが、職員が日々の中で把握した利用者の意見を会議で代弁し、会議後、利用者へ会議の様子を伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重度化に伴う転居等、行政・関係機関と連携し、困難事例に関しては必要に応じて相談を心掛けている。給食の献立の内容チェックを町の栄養士よりアドバイスしてもらっている。	管理者と役場職員とは、顔のわかる関係ができており、事業所の状況報告をしたり困ったことの相談をしている。役場職員も協力的であり、適宜助言や情報提供をしてくれている。また、役場の栄養士から食事のメニューに栄養バランスの助言をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを整備しながら年一回内部研修を行い職員間で何を身体拘束なのかを再認識する機会を設けている。日々の業務でも言葉がけなどの拘束もあることを意識しながら従事している。	身体拘束防止マニュアルを整備し、年1回全職員に身体拘束防止に関する研修を実施している。日中の玄関の施錠を含め、これまでに身体拘束の事例はない。管理者、職員ともに、利用者に対して言葉による抑止をしないように留意している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年一回の内部研修を行い何を虐待であるかを職員間で再認識する機会を設けている。言葉がけの虐待もあることを意識しながら業務に従事している。	虐待防止マニュアルを整備し、年1回全職員に虐待防止に関する研修を実施している。管理者は職員に、ケアの悩みやストレスを一人で抱え込まないように伝え、職員が気軽に報告や相談ができるような雰囲気づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の地域生活援護事業や入居者個別ケース・家族関係を考慮した上で、必要に応じて入居者本人の財産保全に努めるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、家族に理解してもらえるように説明努力をしている。事業所内の雰囲気も感じてもらい不安や疑問に対して分かりやすく話をさせて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は担当職員や管理者はご家族が話しやすい環境、雰囲気作りに心掛けている。写真等をお便りに入れたり、家族アンケートの実施により普段からの信頼関係も大切にしている。	利用者が日々自分が思ったことを率直に言えるような関係作りに努めている。出された意見はそのままにせず、可能な限り応えている。家族の意見や要望は、面会時や手紙、電話等を活用して把握している。また、無記名家族アンケートを実施し、言いづらいことでも言えるように工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる全体会議の中で、業務内容や入浴回数と外出のバランスを考慮するなど、意見や要望はできる限り反映させられるように努力している。全職員からも意見が出しやすいような雰囲気作りにも配慮している。	毎月の職員会議では活発な意見交換がなされている。事業所長と管理者は、職員が提案する意見を尊重する方針であり、経営面で難しいことについても率直に伝えている。職員も、上司に意見を言いやすい職場と感じており、チームワーク良く運営がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当や年休取得など、職員が働きやすい環境整備に心掛けている。個別の勤務希望にも出来る限り対応するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年一回を目標にして、外部研修を受けてもらい個々のスキル向上に努めている。その後、事業所で報告勉強会を行っている。さらに、自己研修の申し出には勤務表上で配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津南町認知症支援体制構築モデル事業のセンター方式基礎研修やGH魚沼の集いで大学教授を招いての研修を行ったりと同業者との交流の機会を確保している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でご家族やご本人に来所して頂き雰囲気を感じてもらっている。入所後も要望等が出た場合は出来る限り答えられるように努力し、安心して生活ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族から不安や要望等を伺い、出来る事、出来ない事を説明しながら意向に添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のケアマネジャーからの情報や、ご家族からの話を聞き、今、必要なサービスを見極め支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事、出来ない事を見極め生活の中でよい関係作りができるとともに、お互いが尊敬できるような関係を築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は、最近の様子をお話し、必要時は介護経過記録も見て頂いている。また、月一回のお手紙で様子を伝えるとともに、必要に応じて電話をさせて頂き、連携を図れるようにしている。	面会時や月1回家族に送付する手紙で本人の心身の状況や暮らしぶりを伝えている。本人と家族の情緒的なつながりを絶やさないように、いつでも気兼ねなく訪問や連絡ができることを伝えており、家族の訪問や電話があると利用者もとても喜んでいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から外出や外泊の申し出がある際は、可能な限り協力し馴染みの環境に触れる機会を作っている。床屋にもこちらから出向いたり、近所の方に来所して頂き、馴染みの人との関係が継続できるように支援している。	利用者の馴染みの方や地元のボランティアの方が気軽に訪問できるように、職員は繰り返し声かけを行ってきた。その成果として、今では気軽に訪問してもらっている。本人の自宅がなくなっても、近くをドライブするなどして馴染みの風景に触れられるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格を把握し、孤立やトラブルがないよう必要に応じて職員が間に入り楽しい雰囲気が作れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は関係性が続かなくなってしまうことが多いが、必要に応じて情報等の提供に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の暮らし方を把握し、日々の生活の会話の中から本人の希望を実現出来るように努めている。	入居前に、本人、家族、担当居宅介護支援専門員等から聞き取りを行い、本人の思いや意向の把握に努めている。利用開始直後は、環境変化による本人の心情変化などに配慮して集中的なケアを行っている。その際に本人から発せられる言葉や表情から多くの情報を得ている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人個人の生活歴の情報をご家族やケアマネジャー、ご本人の何気ない会話の中から収集し、職員間で共有するように努めている。	本人、家族、それまでの担当居宅介護支援専門員等からの聞き取りで、これまでの暮らしぶりや本人が馴染んできた習慣を把握している。本人の人生に寄り添ったケアをしていくために、センター方式のアセスメントシートを活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	台所仕事や排泄時の動作など、身体状況や認知の状態を把握し職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議で担当する利用者のケース検討を行い、その人らしい生活が出来るよう話し合いを持ち、計画に取り入れるようにしている。	担当職員が、日々のケアや交流から得られた本人の意向や介護上の気づきを集約しており、それらの情報を基に計画作成担当者が介護計画の原案を作成している。その原案についてその他の職員や家族、訪問看護師、医師からも意見を聞いている。2ヶ月に1回はモニタリングを実施し、変化があった場合は速やかに現状に沿った計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中帯と夜間帯で記録、介護経過記録を記入することにより、職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診支援、毎月のご家族への手紙、日用品の買い出しなど利用者のニーズに添えるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時には実家近くを通ったり、ボランティアの方が来所された時は、一緒に茶話会を出来るような環境を整え交流を図れるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の際はご家族に付き添って頂いている。家族対応が出来ない場合は施設側で受信対応をしている。週一回の定期的な訪問看護により体調把握を行い必要時は主治医に伝えている。	家族が受診の付き添いをする際に、医師に情報を伝達しやすいように、「受診ノート」作成して活用している。また、希望に応じて週1回訪問看護を受けられる体制があり、職員と訪問看護、医師は「医療連携実績書」を活用して利用者の体調管理を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の検温、血圧測定や体重測定を行い様子観察に努めている。訪問看護ステーションとは24時間連絡が取れる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて入居者の状態や既往歴を医療機関に伝えている。また、退院時はサマリー等をもらい施設生活に対して必要な助言等を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についてご家族に説明している。重度化に伴い退去しなければならない場合も、出来る限りご家族の相談に乗るよう努めている。	入居時に、本人と家族へ重度化や終末期についての事業所の方針を説明している。入居前には事業所の設備を見てもらっており、本人と家族は納得の上での入居となっている。本人の身体状況に合わせ、家族と相談しながら特別養護老人ホームや病院等への申込みや移行支援も行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修や対応マニュアルで学んでいる。日中、夜間時の対応マニュアルは事務所にあり、職員はいつでも閲覧できるようになっている。	急変時や事故発生時のマニュアルが整備されている。年間研修計画のなかで年1回の訓練を定期的に行っている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春は日中帯の避難訓練、秋は消防団、消防署員とともに夜間想定避難訓練を実施している。それ以外に通報、召集訓練を2回実施している。	災害時の対応マニュアルを整備するとともに、年間研修計画のなかで昼夜を想定した防災訓練を定期的に行っている。また、非常時の連絡網を定め、通報訓練と召集訓練を年2回づつ行っている。訓練には、消防署、消防団、地域住民にも参加してもらっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人、その人の性格を知り、ふまえた上で、その人の思いに添った支援を目標に対応している。また、プライドや誇りを損ねないよう気遣い、声のトーンなども考慮しながら支援している。	管理者・職員は、利用者が介護が必要な状況にあっても尊厳は変わらないものであると深く認識している。入浴時のマンツーマン対応や、排泄時の声かけ等の配慮を行い、利用者の誇りやプライバシーを傷つけないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者同士、対職員でも、とても会話の多い事業所である。その気楽な日常会話の中からその方の思いや希望を見出しメニュー等に反映させ、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室であったり、フロアであったり、利用者同士でお茶を手に会話をし、大きな話し声と笑い声が聞こえてくる。そのような空間が良く見られる。他にも台所の手伝いやテレビなども気持ちを把握しながら支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は洗濯した清潔なものを着用している。外出の際は季節感を考えながら、おしゃれをして気分よく出かけている。髪にも気をつけ伸び具合により床屋へ行き、スッキリ感を味わって頂き、身だしなみに注意を払い支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で食に関する話題を多く取り入れ関心を持ち続けて頂き、一人ひとりが今、何を食べたいかを把握している。食事作りは基本、全員参加して頂き、その人の能力に合った支援を行っている。	利用者は食事の準備や片づけに力を発揮しており、職員はそれを助けていた。利用者、職員は「食」を大切にして食事の時間を楽しんでおり、会話が弾み明るい雰囲気であった。時には回転寿司やレストランなどへ行って外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	受診の結果や訪問看護師の助言等をふまえた上で、塩分、水分量の調整を行っている。水分に関しては一日の中で何度か摂れる環境を用意し水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはしっかりと支援している。週二回の義歯消毒も行い義歯の清潔も保持できている。必要時は歯科受診も行うなど、その都度対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンをチェックしトイレ誘導の支援を行っている。尿取りパットを自ら持っていく利用者もおられ自分で交換している。体調不良時は居室にポータブルトイレを設置するなど、その時の利用者の体調に合わせて支援している。	安易に紙パンツを使用せず、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するように努め、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、職員は、利用者の尊厳に配慮した排泄誘導の声かけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の水分、食事の摂取量を排泄一覧表で把握し、その人にあった方法で運動、水分補給、ヨーグルト等を使用し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、気持ちよく入浴して頂けるように、その人の状態を見極め入浴、清拭を行っている。季節によってはゆず湯や菖蒲湯に入って頂き入浴を楽しまれている。	事業所は24時間使用できる風呂を備えており、入浴回数は週5回であるが、利用者の状況によって柔軟に対応している。ゆず湯や菖蒲湯などで、利用者が季節を感じながら入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯の様子を見ながら声掛けを行い居室静養して頂くなどの対応を取っている。夜間帯は居室の温度調節を行い安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬は担当者が行い別の担当者が誤薬がないようにダブルチェックを行っている。服薬する際は、職員は声に出して名前、日付、薬の個数を確認し飲み込むまでを一連の支援としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に応じて調理補助、洗濯物干し、タオルたたみなどをお願いしている。ボランティアを迎え歌謡ショーを年に数回実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	水曜日は床屋、日曜日はドライブと計画は立ててあるが、買い物や役場等へも同乗し戸外へ出かけられるように支援している。また、季節季節の花々を見にも出かけたり、地域の行事にも参加している。	職員は、利用者の気分に合わせて、散歩や買い物、ドライブなどの外出を支援している。また、事業所周辺のほかにも、ひまわり畑や「清津峡」といった地域の名所にもでかける機会を持っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所の管理となっている。しかし、不安になる利用者もいるため、その都度、財布を確認してもらうなどの対応を行い安心して頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時は、ご家族に差支えない程度に電話をかけたり、電話が掛かって来た時もゆっくりと話ができるように支援している。希望を聞き毎年賀状や手紙の返事も書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々民宿だった造りを活かしているため不便さもあるが、家庭的で第二の我が家と言う雰囲気を感じられる。温度、換気に気を付けた、庭に咲く花を飾るなどして季節感を出すように工夫している。	管理者・職員は元民宿の建物の家庭的な雰囲気を十分に活かし、利用者が落ち着いて過ごせるよう環境づくりをしている。屋内には階段や段差もあるが、それを気を付けて生活することにより、利用者の機能維持が図られている。また、職員は感染症等を予防するため、換気や濡れタオルによる湿度管理にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々が自分の居室に誘い茶話会と共に笑い声が聞こえてくる。新聞や本を読んだりクロスワードパズル等をして独りの時間も楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を入居時に持参して頂き、その後、不足分については家族をお願いすることもある。	管理者・職員は、本人や家族に自宅で使い慣れたものや写真など思い出の品を持ち込めることを伝え、本人が居心地良く過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干しは実施できる方については、声掛け見守りを実施しながら行っている。		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				